

ポリクリを終えて

ポリクリを終えて

歯学科5年 金井 梢



臨床実習に参加するために、さらにその後臨床で活躍して行くために、必要なものは何だろうか。歯学に関する知識だろうか、技術だろうか、責任感だろうか、自信だろうか。そのす

べてが必要であること、そしてそのほとんどを自分が十分には持っていないことを知るのが、この臨床予備実習、いわゆるポリクリであった。

ポリクリとは五年の前期、五月から始まる実習である。本学の臨床実習は「診療参加・実践型」で行われる。つまり、まだ歯科医師免許のない学生でありながら、実際に患者の治療に当たるのである。そのことの重大性は言わずとも伝わるであろう。そのため、臨床実習に参加するためには、共用試験（CBT、OSCE）に合格しなければならないと同時に、このポリクリをすべて無事に終えなければならないのである。

ポリクリでは歯科にあるすべての科をある程度（多くて7日間、少なくとも1日）の期間で回り、各科で出される課題を実習として行う。その内容は各科によって様々で、支台歯形成や外来にある器具・材料の使い方など実践的なものから、デンタル読影スケッチや治療計画など幅広く学ぶことができた。相互で実習を行い、初めてマネキンではなく生身の人間の口の中を触る経験をし、その時の緊張感は今でも忘れることができない。口腔外科で行われた伝達麻酔の相互実習では、手が震

え冷や汗をかき、クラスメイトに少し笑われたのもいい思い出である。

臨床実習の戦闘服であるライトグリーンの白衣、通称「緑衣」に袖を通すのもこのポリクリが初めてである。ついにここまで来たかと感動し、同時に言い表せない緊張感に包まれたのを覚えている。その緑衣を着て外来に出る責任感を味わったことによって、意識が変わった人も少なくないだろう。

始まる前は、「ポリクリ？何だそれ」といった状態であったが、ポリクリを終えて、今臨床実習を行っている、その大事さを実感する。ポリクリは、四年次までに学んだ歯学に関する知識や基礎実習と、五年の後期から始まる臨床実習とを繋ぐものである。今まで学んだことが、実際の臨床ではどう活用されているのか知り、それを自分が実行するには何が必要なのか考えることになる。それが先に書いた知識なり技術なりになるのである。個人的にはポリクリで各科を回るのと同時に、その科に関するところのCBT問題集を解くと、ポリクリの予習にもなり、知識も定着しやすいのでお勧めである。また、OSCEに役立つ内容もたくさんあるので、このポリクリをきちんとこなせば、共用試験は怖くはないのである。と言いつつ、共用試験の時は心臓の音がうるさいくらい緊張したが。

歯科学生として、在学中にここまで臨床の経験ができるのも新潟大学くらいであろう。その貴重な経験、臨床実習を実行できるのも、このポリクリというものがあるからだと思う。これからもこの緊張感と責任感を忘れず、臨床実習、そしてこれからの臨床で、努力していきたいと思う。